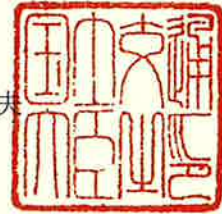


認 定 書

国住参建第 1637 号
令和 6 年 7 月 26 日

日鉄建材株式会社
代表取締役社長 美濃部 慎次 様

国土交通大臣 齊藤 鉄夫



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第三号（屋根：各 30 分間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FP030RF-2058
2. 認定をした構造方法等の名称
鋼板製デッキプレート屋根
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名
鋼板製デッキプレート屋根
2. 支持間隔
屋根の支持間隔：4,000 mm 以下

3. 材料構成等

項 目	製 品 仕 様 等
屋根版	デッキプレート 種類及び規格：①～⑥のいずれかとする ①規格：溶融亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3302) 鋼板の種類：SGH340、SGH400、SGH440、SGH490、SGH540、SGC340、SGC400、SGC440、SGC490、SGC570 ②規格：溶融亜鉛－5%アルミニウム合金めっき鋼板 (JIS G 3317) 鋼板の種類：ZAH340、ZAH400、ZAH440、ZAH490、ZAH540、ZAC340、ZAC400、ZAC440、ZAC490、ZAC570 ③規格：溶融 55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板 (JIS G 3321) 鋼板の種類：SGLH400、SGLH490、SGLC400、SGLC440、SGLC490、SGLC570 ④規格：建築構造用溶融亜鉛－アルミニウム－マグネシウム合金めっき鋼板 (国土交通大臣認定指定建築材料：MSTL-0069 又は 0070) 鋼板の種類：NSDH400、NSDH490、NSDC400、NSDC490 ⑤規格：溶融亜鉛－アルミニウム－マグネシウム合金めっき鋼板 (JIS G 3323) 鋼板の種類：SGMH340、SGMH400、SGMH400Y、SGMH440、SGMH440Y、SGHM490、SGMH540、SGMC340、SGMC400、SGMC400Y、SGMC440、SGMC440Y、SGMC490、SGMC570 ⑥規格：デッキプレート (JIS G 3352) 鋼板の種類：SDP2、SDP2G、SDP3 鋼板の厚さ (mm)：0.8～1.6 山高さ (mm)：90±1.5 働き幅 (mm)：400+8, -2 形状及び寸法：4. 構造説明図参照 縦リブ部のエンボス：あり、なし 支持条件：単純支持又は連続支持
タイトフレーム	種類及び規格：①～⑤のいずれかとする ①溶融亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3302) ②溶融亜鉛－5%アルミニウム合金めっき鋼板 (JIS G 3317) ③溶融 55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板 (JIS G 3321) ④建築構造用溶融亜鉛－アルミニウム－マグネシウム合金めっき鋼板 (国土交通大臣認定指定建築材料：MSTL-0069 又は 0070) ⑤溶融亜鉛－アルミニウム－マグネシウム合金めっき鋼板 (JIS G 3323) 厚さ (mm)：3.2 以上 山高さ (mm)：97±1.5 働き幅 (mm)：800 以下 形状及び寸法：4. 構造説明図参照 幅 (mm)：40 以上

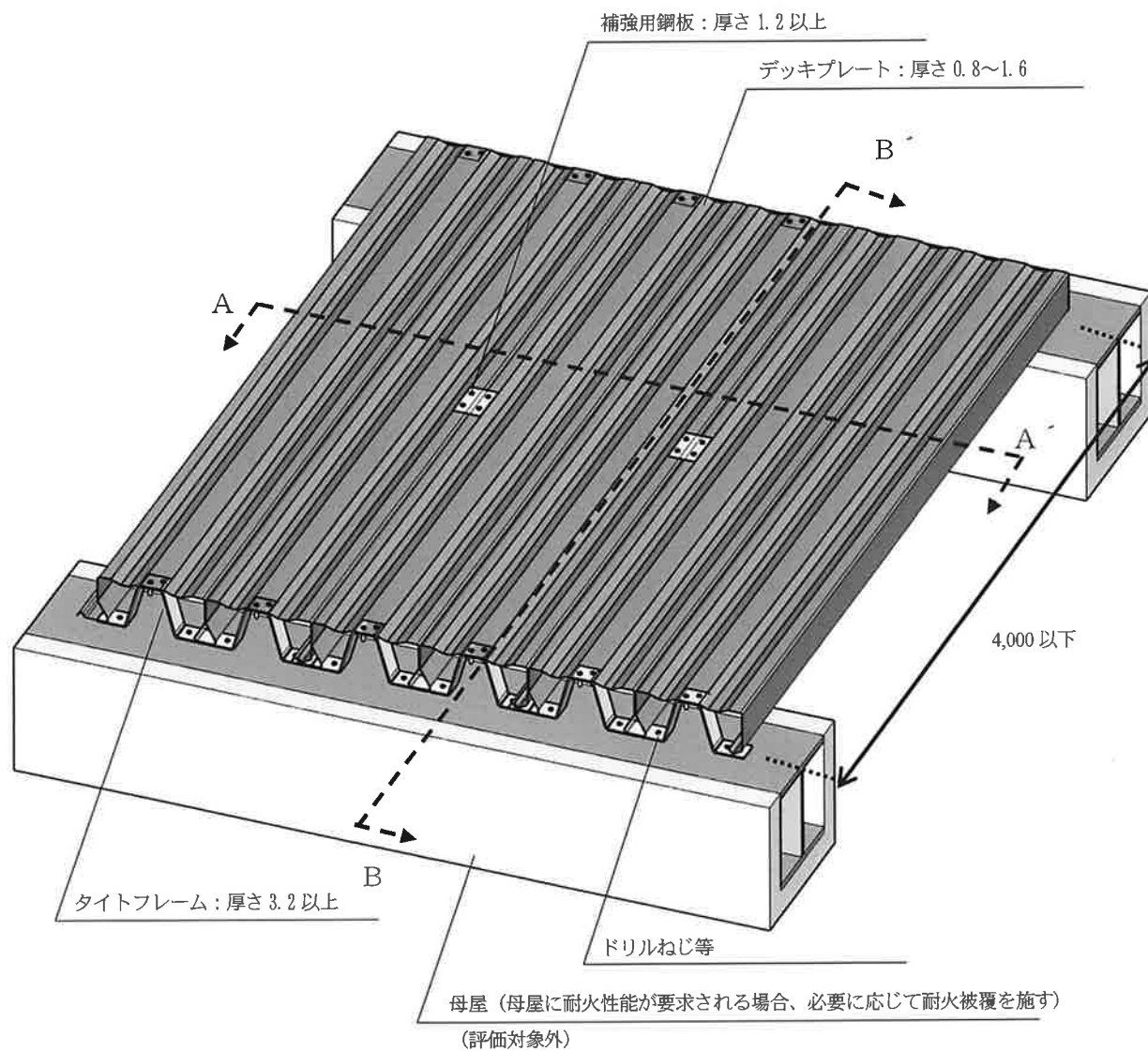
項 目	製 品 仕 様 等
接合方法	母屋とタイトフレームの接合 仕様：①～③のいずれかとする ①発射打ち込み鉚 材質：ピアノ線材合金鋼 寸法 (mm)：φ4.5×19 以上 留め付け間隔 (mm)：200 以下 ②ドリルねじ 寸法 (mm)：φ6×19 以上 留め付け間隔 (mm)：100 以下 ③隅肉溶接 溶接長さ (mm)：20 以上 留め付け間隔 (mm)：200 以下 タイトフレームとデッキプレートの接合 ドリルねじ 寸法 (mm)：φ4×13 以上 留め付け間隔 (mm)：200 以下 留め付け本数 (本/山)：2 以上 デッキプレート相互の接合 補強用鋼板 種類及び規格：①～⑤のいずれかとする ①溶融亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3302) ②溶融亜鉛－5%アルミニウム合金めっき鋼板 (JIS G 3317) ③溶融 55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板 (JIS G 3321) ④建築構造用溶融亜鉛－アルミニウム－マグネシウム合金めっき鋼板 (国土交通大臣認定指定建築材料：MSTL-0069 又は 0070) ⑤溶融亜鉛－アルミニウム－マグネシウム合金めっき鋼板 (JIS G 3323) 厚さ (mm)：1.2 以上 形状及び寸法 (mm)：80×50 以上 留め付け間隔 (mm)：2,000 以下 ドリルねじ 寸法 (mm)：φ4×13 以上 留め付け間隔 (mm)：400 以下 留め付け本数 (本/枚)：4 以上

4. 構造説明図

(1) 透視図

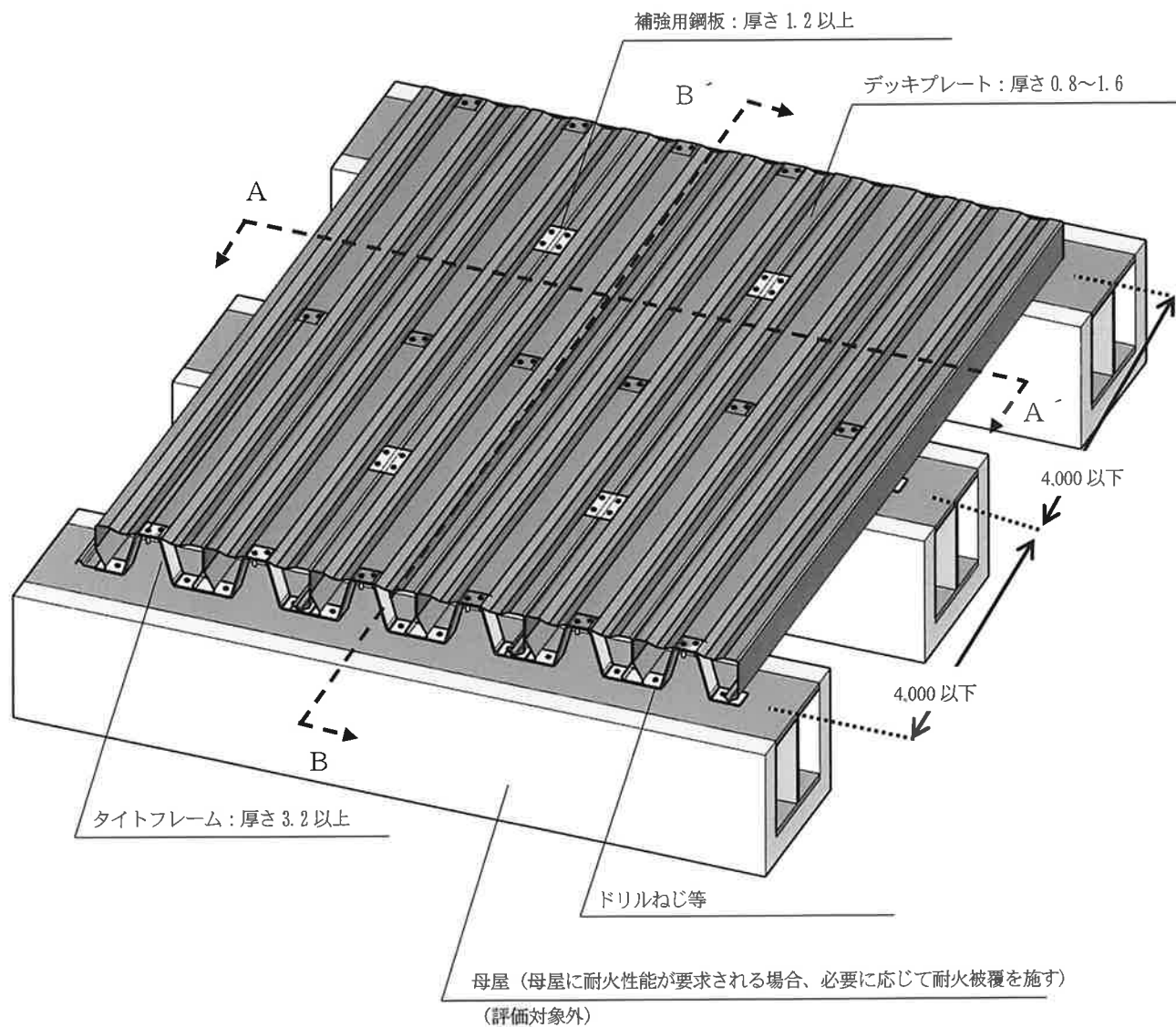
(1) - 1 デッキプレートが単純支持の場合

(単位: mm)



(1) - 2 デッキプレートが連続支持の場合

(単位：mm)

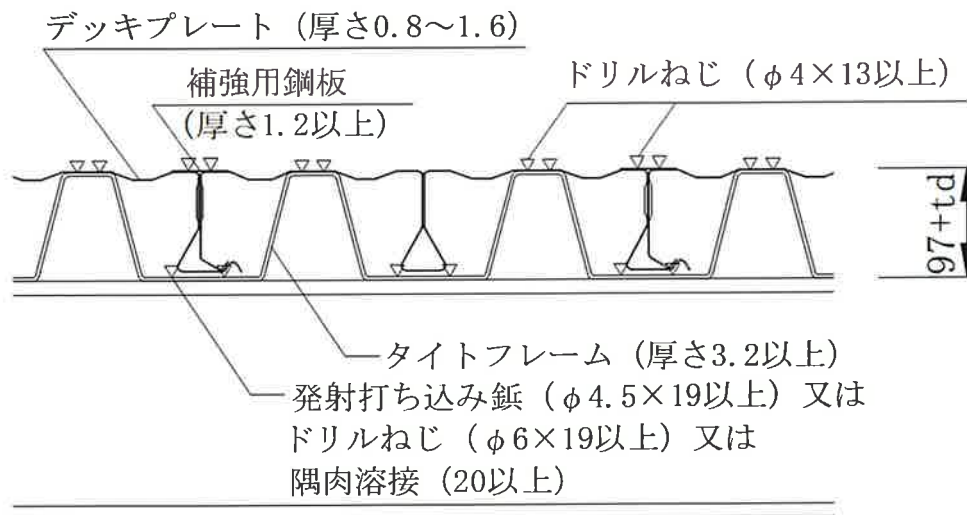


(2) 断面図

(2) - 1 デッキプレートが単純支持の場合

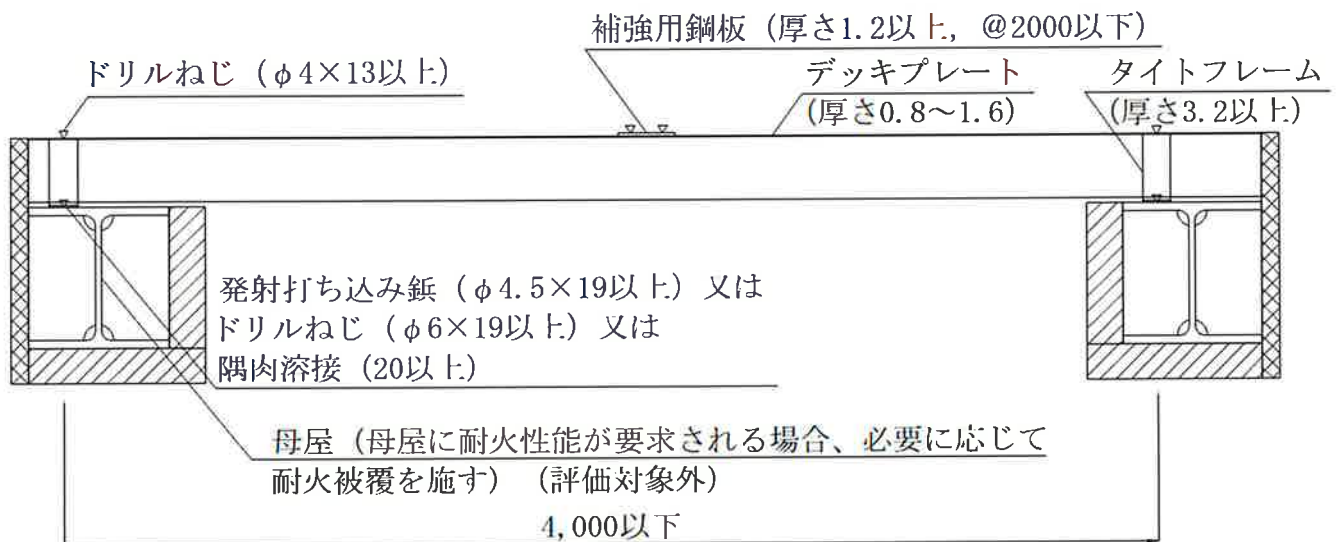
(単位：mm)

i) A-A' 断面図



※td：デッキプレート板厚

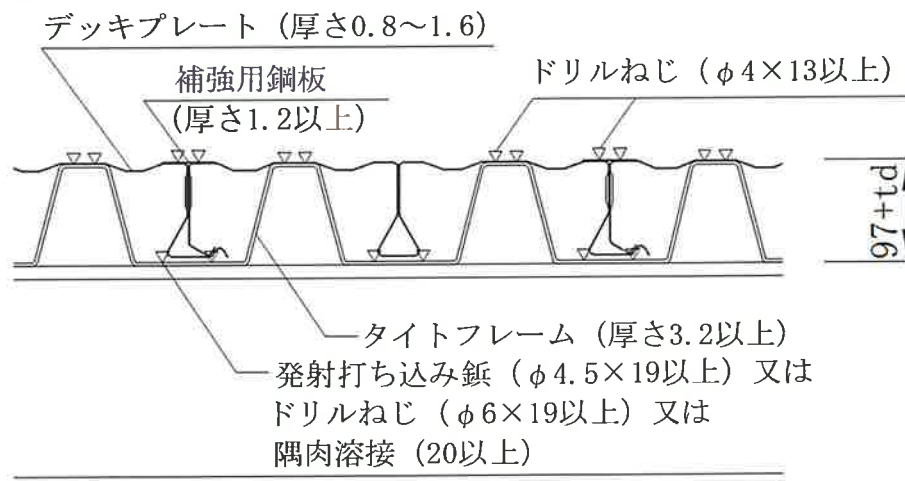
ii) B-B' 断面図



(2) - 2 デッキプレートが連続支持の場合

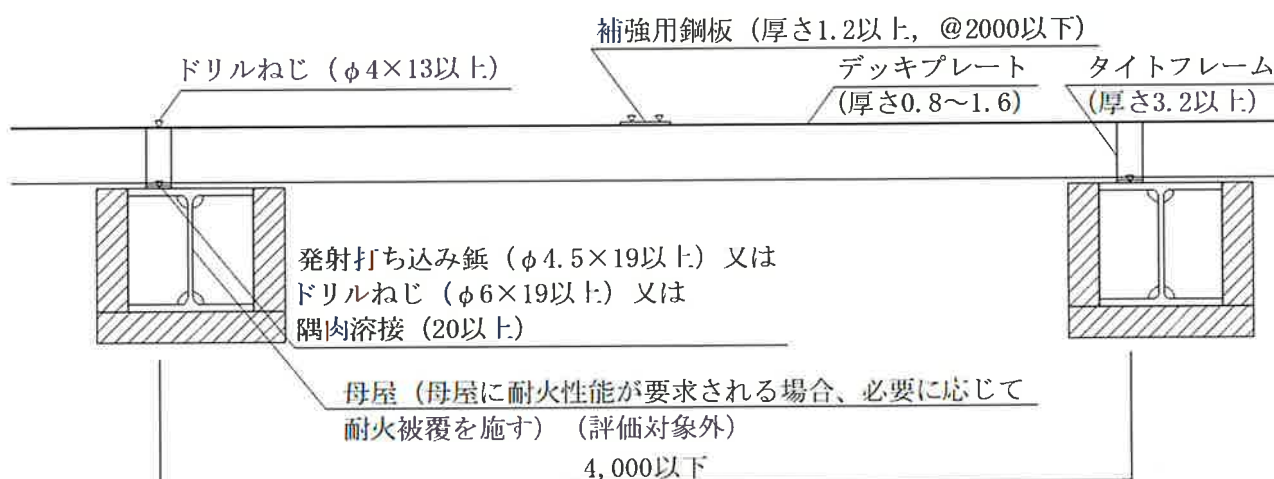
(単位：mm)

i) A-A' 断面図



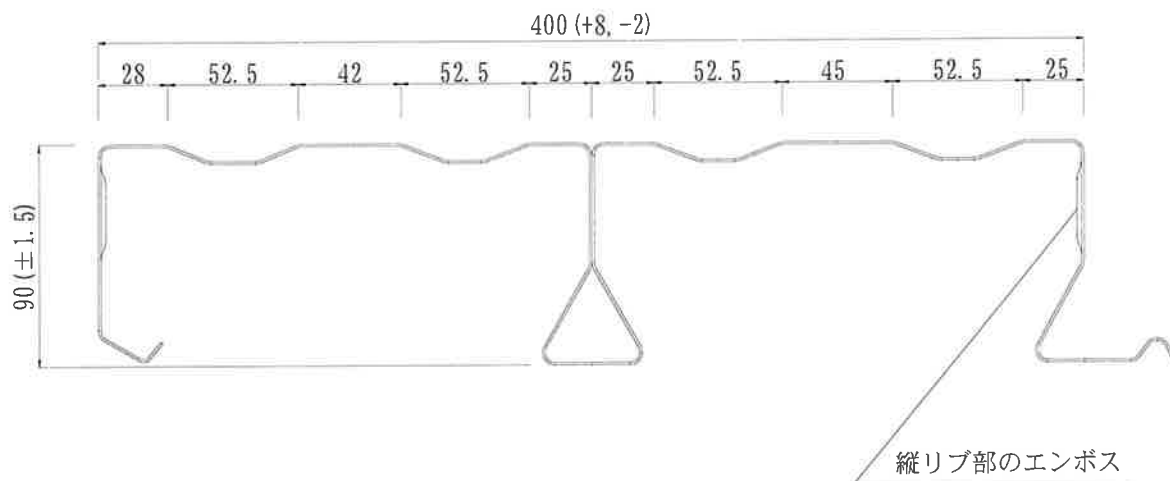
※td：デッキプレート板厚

ii) B-B' 断面図



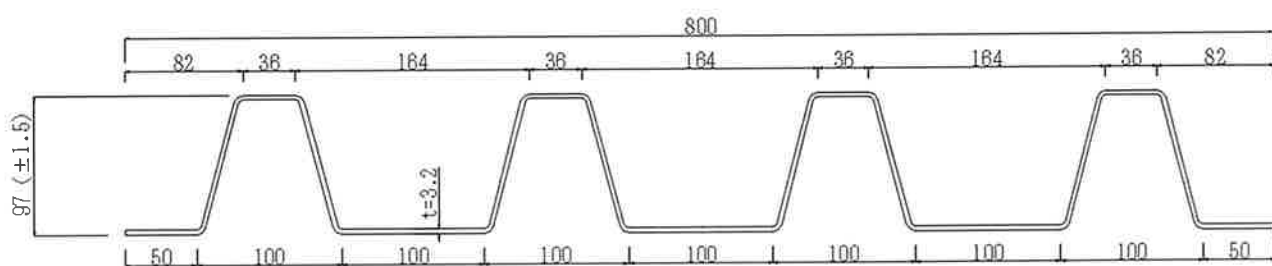
(3) デッキプレートの形状・寸法

(単位: mm)



(4) タイトフレームの形状・寸法

(単位: mm)



5. 施工方法

(1) タイトフレームの取付け

タイトフレームの芯々間隔が 4,000mm 以下であることを確認する。タイトフレームを墨出し線に合わせて母屋の直上に配置し、母屋とタイトフレームとをドリルねじ等を用いて留付ける。

(2) デッキプレートの取付け

デッキプレートをタイトフレームの上に配置し、タイトフレームとデッキプレートとをドリルねじ等を用いて留付ける。デッキプレートの長さ方向の相互は嵌合等により接合し、かつ 2,000mm 以下の間隔で補強用鋼板を介してドリルねじで留付けを行う。